

海外ボランティアレポート

氏名	森田 千晴	作成年月日	2024年 2月 26日
派遣国	インドネシア	職種	野菜栽培
1 テーマ（派遣国情報紹介、協力活動紹介 等 テーマを記載ください。）			
協力活動紹介			
2 内容			
<p>私は現在、インドネシア西ジャワ州の農業高校に、野菜栽培隊員として派遣されています。福井県での農業従事経験から、日本の農業や日本の文化についての情報をインドネシアの高校生に紹介することを活動目標にしています。また、近年増加し続けている技能実習生、および特定技能生が『どんな国から、どんなプロセスを経て、どんな希望を抱いて日本に来ているのか』という現地でしか感じられない情報を得て、彼らの日本での生活をサポートするヒントを探したいと考えています。</p> <p>私が配属されている農業高校は、生徒数約 1100 名という大きな学校で、園芸作物、畜産、食品加工、養殖漁業、プランテーション農業の 5 つの学科に分かれて授業を行っています。日本の高校と同じように、15 歳～18 歳の生徒が通っていますが、学年の呼び方は、小学校から通して数えるので、10～12 年生となっています。園芸作物学科では、野菜やコメなどの作物生産に加え、観葉植物栽培などについても学びます。野菜栽培の実習は、クウシンサイやレタス、ソシンと呼ばれる小松菜の仲間などの葉物野菜や、トウガラシやトマトといった果菜など、地域農業でよく栽培されている品目を題材に行われています。実習で収穫した野菜は、洗って束ね、生徒自らが校内で売り歩きます。私も授業に参加して、インドネシアにはない水菜を試しに植えながら、日本の農業について紹介しています。雨季と乾季の違いこそあれ、気温は通年ほとんど変わらないインドネシアの高校生は、日本の四季や、季節に対応した農業技術について興味津々で聞いてくれます。</p> <p>必修の日本語の授業や、日本文化好きの生徒が参加する『日本語クラブ』もあります。やはり、アニメやマンガをきっかけに日本に親しみを持っている生徒が多く、独学で覚えたフレーズを披露してくれる生徒もいます。あいさつや自己紹介、ひらがななどの初歩的な日本語を教えたり、書道、かるたなどの日本文化に触れる機会を設けたり、とても楽しそうに参加してくれます。日本に行きたいと言う生徒に理由を聞いてみると、「インドネシアではできない経験をしたい」、「お金を稼いで両親を楽させてあげたい」、「うどんを食べてみたい」などなど、いろいろな夢を語ってくれます。農業についても、文化についても、インドネシアの若者たちは日本を「憧れの対象」として見ており、その気持ちを糧に日本語の勉強に取り組んでいるのを感じます。日本で働いた経験のある人々の多くは帰国してからもその経験を生かして活躍しているため、先生や生徒からは生徒の卒業後の進路として日本で進学・就労することに対して大きな期待を寄せられています。</p> <p>福井県に在住しているインドネシア人は 2022 年末時点で 600 名以上、現在もその人数は増加し続けており、「隣人」と呼ぶべき身近な存在です。みなさんもそんな「隣人」たちが、どんな国から、どんな希望を抱いて日本に来ているのか、少し思いを馳せてみてはいかがでしょうか。</p> <p>（参考：「福井県内外国人住民数の概況（令和 4 年 12 月末）」 https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kokusai/gaikokuzin_d/fil/74.pdf）</p>			

※県民の方へのメッセージとして記載ください。（基本的に原文のまま公表します。）

※可能な場合は、写真を添付ください。



野菜栽培実習への参加の様子



野菜栽培実習の様子



課外活動の日本語クラブ



日本語クラブでの書道体験の様子